

2021/02/21(日) ~ 02/23(祝)

宇宙の話を3つしよう

ソラヤマの自伝

あひるなんちゃら

関村個人企画

劇場版

01

出演=松木美路子、篠本美帆(あひるなんちゃら)、石澤美和

登場人物

妹 ミチコ。ソラヤマの妹。

小林 コバヤシ。編集者。

空山 ソラヤマ。元宇宙飛行士。

夏。蝉の声かなんか鳴ってる。

ミチコ（ソラヤマの妹）が椅子に座っている。

その正面にはコバヤシが座っていて。

コバヤシは、鞆から一冊の本を取り出して、

テーブルに置いた。

妹　できあがったんですか、姉の本。

小林　はい。

妹　そうですか。

小林　もう少し早くできればよかったですけど。

妹　そうですね。

小林　生きてるうちに完成品を見せてあげたかったなあ。

妹　ええ。

小林　ギリギリ間に合うかなあ、って思ってたんですけどね。

妹　はい。

小林　本当、あと2日早く編集作業が終わってれば、本人に完成品、見せられたと思うんですよね。

妹　しょうがないですよ。そういう運命だったんですよ。

小林　そうかもしれないですね。

妹 ええ。

小林 でも、見せてあげたかったなあ。

妹 はい。

小林 有給使って旅行なんか行くんじゃないかなあ。

妹 ん？なんですか？

小林 北海道。最高だったけど。あれ行かなきゃ間に合ってたなあ、って。

妹 え？

小林 はい？

妹 え？北海道に遊びに行ってたんですか？

小林 はい。

妹 え？

小林 あ、お土産ですよ。もちろんありますよ。

妹 そうじゃなくて。え？嘘？怖い怖い。

コバヤシ、後ろを振り向いた。

小林 誰もいないじゃないですか。

妹 あ、うん。私。誰かが来て怖がってるんじゃないよ？

小林 じゃあ、お姉さんの霊でも見えましたか？

妹 そういうのでもないよ。

小林 じゃあ。

妹 え？なんで有給を取得しちゃったの？

小林 はい？

妹 どうして姉の自伝の編集作業の途中で有給取って初夏の北海道に遊びに行っちゃったの？

小林 …一番、いい時期だから。

妹 そうでしょうけど、そういうことを聞きたいのではない。

小林 はあ。

妹 旅行しなければ間に合ってたんですよね。

小林 はい。結果論ですけどね。

妹 お前さあ。

小林 コバヤシです。

妹 名前は知ってる。知ってるけど、あえて、お前と呼ばせてもらいました。

小林 はい。

妹 おかしいでしょ。

小林 なにがですか？

妹 旅行しちゃうのおかしいでしょ。姉は急に死んだわけではないんだから。生きてる間に完成させようとするでしょ、普通。

小林 はい。頑張りました。

妹 頑張ってるやつは、有給取らないのよ。

小林 それが日本の社会の問題ですよ、頑張るイコール休まないみたい。24時間戦えますか、みたいなの。

妹 そうかもしれないけど、今回ばかりは休まないでほしかった。

小林 すみません。

妹 まあ、いいんだけどさ。

小林 それでも間に合うと思ってたんですよ。

妹 そう。じゃあ、しょうがなかったか。

小林 しょうがなかったんですよ。

妹 うん、あなたはしょうがなかったと思わないでくれる？

小林 はい。

妹 でも、この人を編集者に選んだのは、姉ちゃんだったんだから、自業自得か。

小林 そうですね。

妹 うん、だから、あなたには反省し続けてほしい。

小林 はい。すみません。

妹 : まあ、なんにせよ、完成してよかったよ。

ミチコはテーブルの上の本を手取る。

小林 あ、それ。

妹 うん？なに？

小林 それ。村上龍です。

妹 は？

小林 村上龍です。

妹 村上龍。

小林 知りませんか？小説家の。

妹 知ってるけど。

小林 はい。

妹 えーと……どうして？

小林 はい？

妹 どうしてこの本を持って来たんですか？普通は出来上がった姉の自伝を持ってくるところだが？

小林 お土産です。

妹 ん？

小林 北海道の。

妹 北海道の人だったっけ？村上龍。

小林 長崎です。

妹 そう。

小林 はい。

妹 ちょっと意味がわからないな。

小林 私、旅行したら、記念に本をかうんですよ。で、本って、だいたい最後のほうに真っ白なページがあるじゃないですか、そこに、日付とか、思い出とかを、書くんです。

妹 それで？

小林 あ、いつもそれをお土産として人に渡すわけじゃないですよ？記念ですから、基本的には自分のために買ってるんですけど。

妹　じゃあなんで。

小林　白い恋人、全部食べちゃったから。

妹　はあ？

小林　そのかわりと言ってはなんですが、こちらをお土産として持参した次第です。
妹　なるほどね。いらねえよ。

小林　え？

妹　そんなお土産いらねえよ。

小林　面白いのに。

妹　じゃあ貰うけど。

小林　どうぞ。

妹　で、姉の本は？

小林　え？読めます？

妹　は？

小林　や、ミチコさん読まないって言ってたって、ソラヤマさんが。

妹　私が読んでても読んでなくても関係ないですよね。

小林　そうですか？

妹　　そうでしょ。本ができあがりしましたよ、って、仏壇に供えてください、って。持って来たんですよ？

小林　　そのつもりだったんですけどね。

妹　　けど？

小林　　忘れちゃいましたね。

妹　　何しに来たんだよ。

小林　　ですから、とりあえず今日は、仏壇にご報告だけ、させてもらおうかな、と。

妹　　…そうですか。

小林　　はい。

コバヤシは仏壇のあるほうへ。

蝉の音が消える。

梅雨。雨の音かなんか鳴ってる。

妹とコバヤシが座って待っている。

少しして、ソラヤマが書斎から出てくる。

空山 ファアナティック・プラネット。

コバヤシはそれをメモしようとする。

妹 ね。

小林 はい？

妹 わかりましたよね？今ので。

小林 どういうことですか？

妹 姉には無理なんですよ。

小林 どういうことでしょうか？

妹 センスがないんです。

空山 センスはあるよ。

妹 ちよつと黙ってて。

空山 センスはあるよ。

妹 うん、黙れ。

小林 どういうことでしょうか？

妹 三十分くらい考えての、ファアナティック・プラネット、ですよ。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

宇宙の話を3つしよう[1]（おためしサンプル）
ソラヤマの自伝

2021年2月17日 初版発行

著 者 関村俊介 © 2021年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529
